

給水配水一体化ご採用事例

埼玉県
坂戸、鶴ヶ島水道企業団



不断水穿孔作業中



EFプラグ付サドル

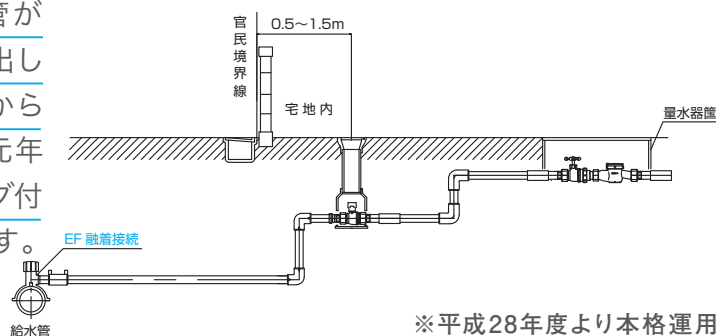


坂戸、鶴ヶ島水道企業団
マスコットキャラクター
「さかつるちゃん」

坂戸市と鶴ヶ島市は、埼玉県のほぼ中央、東京都心から約45km圏内に位置し、面積を合わせると約59km²となっています。地勢はおおむね平坦ですが、坂戸市西部の城山では、標高が約113mとなっており、この丘陵を背にして高麗川が南西から北東へと流れています。

坂戸、鶴ヶ島水道企業団の、令和4年度末の給水区域内人口は169,677人、給水戸数は79,196戸、令和4年度末時点の管路総延長は649.6km、耐震化率は30.3%(令和5年3月)です。平成20年より経済性を考慮し、50～100mmまでに配水用ポリエチレン管を採用、150～400mmまではダクタイル鋳鉄管GX形を採用し、耐震化・長寿命化を図っています。

東日本震災では給水装置の被災が多かった事が報告されていた事から、ガス管の耐震事例などを参考に、給水管路にもポリエチレン管(融着・高密度)を導入し、平成28年度より本格運用しています。給水用ポリエチレン管は、本管同様の長寿命性を有する青ポリを選定。事故時に二層管の補修継手が使えるなど、施工面、維持管理面を考慮し、管の外径規格はφ20、25についてJIS外径のPWA規格品(SDR11)を採用。耐震性でネックとなる分岐部も「EFプラグ付サドル」で融着一体化するため、管路全体の耐震化・長寿命化が出来ると期待しています。平成30年からは、本管が配水用ポリエチレン管の管路からの新規給水取出し(φ20,25)に対しても、鋳鉄製サドルを指定材料から外し、「EFプラグ付サドル」としました。更に、令和元年より更に口径の大きなφ50(JWWA)分岐のEFプラグ付サドルも認証し、耐震化・長寿命化を促進しています。



※平成28年度より本格運用